

見えているのか、想像か

道路の幾何学設計上重要な要素として“視距”がある。運転者が道路を見通すことのできる距離のことで、十分な視距があるかどうかは、走行の安全、速度、交通容量などに著しい影響を与える、と古本に出さずに持っている大学の教科書に記載されている。この部分を見ると若い頃の苦い経験を思い出す。大学卒業後、給料を貯めて念願のスポーツ車を購入し、友人とドライブに出かけた。当時はF1ブームなどの影響で車に対する思い入れが強く、車の性能やドライブテクニックを議論することが楽しい時代だったので、ワインディングではつい攻めてしまいがちなのだが、手稲山のカーブで曲がりきれず、対向車線にかなりの速度で大幅にはみ出してしまった。対向車がいなかったから何事もなかったものの、一歩間違えば大惨事になっていた。同乗していた友人から叱られ、自分の無鉄砲さ、無分別さを大いに反省した。交通工学上は縦断勾配、曲線半径、走行速度、遠心力、摩擦力、視距などが関係するが、カーブの先が見通せない状況で、過大な速度で進入したことが原因だった。視距の外側にあるカーブの曲線半径が想像よりも小さかったのだ。以来、カーブ手前では、視距の範囲の情報で判断し、安全に走行し得る速度まで減速してから進入する動作を身に染みこませて運転している。

雪氷チームでは、吹雪視程障害時の交通事故についてマスコミ取材や個別相談を受けることがあるが、議論の中で、運転者が“見えている”としていること不安定さや、運転者が持つ“想像”の危うさを感じるが多々ある。また、無鉄砲さへの賞賛や、正常化バイアスも背景にあるように思えてならない。技術革新とその実装スピードは速く、自動運転、自動ブレーキ、障害物検知、自動通報などの技術が花盛りだが、車両走行の運動法則は不変だ。人身事故は減少傾向にあるものの、事故ゼロ達成において運転者自身の考え方や運転習慣は重大な要素であり、グローバル化や高齢化が進むクルマ社会では一層重要視すべきである、と実感している。

(雪氷チーム上席研究員 高橋 丞二)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。